
Seven Type Day

終息の貴公子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Seven Type Day

【Nコード】

N1044L

【作者名】

終息の貴公子

【あらすじ】

主人公、火野滝助と友人たちの日常をつらつらと述べた今の所はゆったり小説。作者自身何も考えてないからどう変動するかは全く不明です。

ブログ：火の朝

…？

あれ？

声が出ない…。

体が動かない…。

俗に言う金縛りって奴？

うーごーけー！

学校遅刻しちまうだろうが！

今日は始業式だったのに…初日から遅刻とか…担任にボコられる。
いや、それはまだましな方だ。
アイツとの待ち合わせに遅れたら…殺される！！

ヒソウスケ
俺は火野滝助、至って普通の高校生だ。

殺されるとか言ったけど、至って普通の学校で至って普通の日常をおくっている。

普通万歳＼（＾－＾）／

日常歓迎＼（＾o＾）／

非日常なんざクソ食らえ！！

てなわけでさっさと着替えて飯食って学校行きたいわけだが…誰か動ける方法教えてください。

早く体動けー！！

冗談抜きで

「殺されるー！！」

あ、声出た！！

これで助けを呼べばよし！

「誰に殺されるのですか？」

「あん？幼なじみの日浦藍華という悪魔にだなあ……」

……え、今質問したの誰？

この家、俺以外は昨日から海外旅行中でいないはず。

それ以前に玄関・窓・自室、全てに鍵をかけたから誰も入って来れないはず。

え、じゃあ、まさか……藍華本人！？

「そうですか。私に殺されるのですか。では希望、願望、欲望のどれですか。……あ、希望でしたね。では早速……」

藍華は腰に差している刀を鞘から抜き、仰向けの俺に馬乗りの状態で刀を構えた。

「ちょ、待て！止めろ！いや、それよりも何でオマエが俺んちにいらんだよ！」

「遅いから迎えに……いえ、殺りにきたのです。約束の時間は過ぎてしまいましたし。あれほど遅刻するかと念入りに言いましたのに」

藍華は真顔で言う。

せめて表情を変えてほしい。

「いやいやいやいや、笑顔でサラッと怖いこと言っな！てか、遅刻したのにも訳があんだよ！」

俺は慌てて言う。

「言い訳ですか。見苦しいですよ」

「言い訳じゃなく理由だ。金縛りにあってたんだよ！」

俺がそう言ったら、藍華はビクツとして刀を鞘に収めた。そして立ち上がって俺の足元へ…そして構えた。

「何し『除霊』は？何言っ」

チツ…

瞬間、俺の髪の毛が数本切れた…。

藍華は足元で平然と立っている。

「てるん…お。体が動く！藍華、さつたと学校行こうぜー！」

何で髪が切れたのか、突然動けるようになったのか…。

そんなことはどうだっていいんだ。

最初に言ったが…非日常だけは勘弁だ！

プロローグ：日の朝

ピピピピ…ピピピピ…

…目覚ましが鳴ってますね。

早く止めないと延々と鳴り響きますね。

それは勘弁してほしいです。

ピピピピ…ピ、カチッ

「ん…ふあ……」

私は長い髪を後ろでくくって、布団を片付けました。
申し送れました。

私は日浦藍華という、平凡な女子高生です。
ヒウライカ

極めて平凡な高校に通い、極めて平凡な日常を過ごしています。
ですが、私はどっかのバカと違い、非日常を求めているのです。

そのため、まずは自分自身から平凡という言葉が消しました。

それは…常に刀を持ち続けることです。

そもそも何故刀なのかといいますと……はっ！？

こんな話をしている場合ではありませんでした。

今日は始業式です。

遅刻はないと思いますが、幼なじみと待ち合わせしているのです。
私から約束しておいて忘れていたから遅刻した…などとあってはならないのです。

一応、あのバカには念入りに言っておいたので遅刻はまずないですね。

さて、朝ご飯食べて待ち合わせ場所にしましょうかね。

〈待ち合わせ場所〉

…来ませんね。

現時刻は7時半、待ち合わせ時刻は7時20分。

トラブルでしょうか。

いえ、あのバカのことです…まだ眠っているに違いありません。
仕方ないですね。

迎えに行きましょうか。

〈火野宅〉

チャイムを鳴らすこと1分…出てくる気配がないですね。

仕方ないです…確か植木鉢の下に合い鍵を忍ばせていたはずです…

あ、ありました。

音を鳴らさずにドアを開け、侵入…成功です。

足音をたてずにバカの寢床へ…いました。

…変ですね？

寝転がったまま、体を動かさずに、目をパツチリ開けています。

これはもしかや…

「殺されるー！！」

……は？

殺される？

一体何を……いつそ聞いてみましょうか。

「誰に殺されるのですか？」

「あん？幼なじみの日浦藍華という悪魔にだなあ……」

……やはりバカですね。

家に誰もいないというのに話しかけられて、バラされたらマズいことをスラスラと……。

説明し忘れてました。

このバカこそが私の幼なじみ、火野滝助です。

そんなことよりも……このバカをきっちり調教しておかないと。また遅刻を繰り返されては困りますからね。

「そうですか。私に殺されるのですか………」

結構時間が経過してしまいました……。

急がないと本当に遅刻などという失態を……それだけは避けないといけません。

「……………遅刻したのにも訳があんだよ！」

……訳？

ただの言い訳ですね。

私の約束を破ったためのお仕置きを逃れるための。

「言い訳ですか。見苦しいですよ」

「言い訳じゃなく理由だ。金縛りにあってんだよ!」

金縛り？

……私がさっきから馬乗り状態で座っているから……ではありませんね。

おそらく…霊が滝助に憑いているのでしょう。

何故おそらくと言ったのか、理由は私には霊が見えないからです。

滝助にも見えてはいません…そもそも、このバカは霊を信じていませんしね。

ですが、昔から影響は受けるようデ。

こういつのを靈感がある…と言つのでしょうか。

とにかく、滝助に憑いている霊を祓わなければ学校にも行けませんね。

私は立ち上がって、滝助の足元で居合いの構えをしました。

バカが何かを言っていますが…何も考えず、心を無にして…。

『日浦流除霊術居合い壱の型：一掃』

チツ…

滝助の髪が数本切れた音がしました。

多少失敗してしまいましたが、滝助にはバレていませんね。

たとえ、今の私の言葉が聞こえていたとしても、追求はないでしょうけど。

「……藍華ー、さっさと学校行こうぜー!」

動けるようになった途端、調子いいですね。

何故、霊が見えていないのに除霊できたのか。

そもそも、何故除霊なんて出来るのか。

それはまた…いづれ♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1044/>

Seven Type Day

2010年10月28日06時55分発行